

令和3年度 学校運営評価

本学院では、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について、「全教職員による自己点検・自己評価」を実施している。

この度、令和3年度評価がまとまりましたので結果を公表します。現在の形での自己点検・自己評価は4年目となり、教職員の学校運営に対する意識も高まってきている。

今後も評価項目等の見直しをはじめ、評価の分析を行い魅力ある学院づくりに努めていく。

○実施結果と考察 11 領域 (142 項目)

○評価尺度：4 できている 3 ややできている 2 ややできていない 1 できていない

カテゴリー		評価点	考察 (課題含む)
I 教育理念・目標	学校の教育理念・目標の設定	3.6	2022年のカリキュラム改正に向けて、教育理念・目標の見直しを行い次年度から実施予定である。教育理念は、教育要綱、学生便覧、HP、学生の教室に掲示を行い、職員、学生にも浸透され達成にむけ取り組んでいる。
	教育理念・目標の達成		
	教育理念・目標の確認、見直し		
II 学校運営	将来の構想・展望	3.4	さいたま市に貢献できる看護師を育成するため、入学生の定員割れを起こさず、入学後は3年間で卒業できるよう教職員全員で取り組んでいる。 組織目標、教育事業目標については、年度当初に教職員に周知し学校の方向性を示している。 教育事業目標については、各係活動を通じて活動目標の計画・実施・評価を行い教務会議にて次年度の課題をあげ報告をしている。
	学校の組織目標を作成しており、かつその目標が教職員に理解されている。		
	教育事業目標に対する評価を実施し、その結果を教職員に周知するとともに、次年度の目標につなげている。		
III 教育課程・教育	学習内容は、教育理念・教育目標と一貫性があり、時代の要請に応える内容となっている。	3.5	新カリキュラムに向けて、社会の動向や市の医療ニーズをふまえ、教育理念・目的・目標を修正した。 授業計画については、毎年、教育課程とシラバスの整合性を確認、また教科書検討を行い、学生が理解しやすいシラバスを作成している。 昨年度までは、入学時にのみシラバスを配布していた。講師や授業内容に変更生じることもあり今年度からは毎年4月に、全学年にシラバスを配布することにした。その結果、学生に変更した授業者名や、授業経計画が伝わり学生が、授業準備が行いやすくなったこと、また授業の理解に役立てられたのではないかと考えている。 のではないかと考えた。 時間割については、新型コロナウイルス感染症の影響で学習進度に影響を及ぼさないよう病院、医師に1月からオンライン講義を依頼し、オンラインで病態学の講義が実施できるようになった。新型コロナウイルス感染の影響で長期欠席する学生が学習で送れないよう対応をした。 新カリキュラムではITCの活用の強化も言われているが、Zoomミーティングができる教室が4
	授業計画が作成され、教育課程との整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしてある。		
	効果的な授業運営を図るため、適切に時間割を調整している。		
	授業内容や指導方法が学生のレベルに合うよう工夫・改善している。		
	学生の単位取得に向けた支援を実施している。		

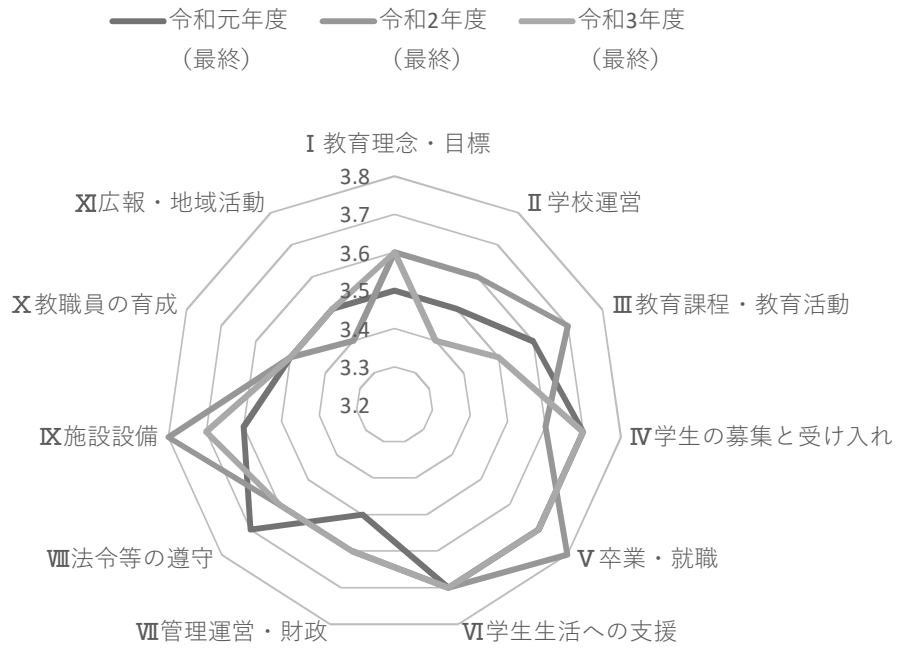
	<p>実習目標が達成されるよう実習環境が整備されている。</p> <p>実習指導者と教員の役割を明確にし、互いに協力し実習指導に当たる体制がある。</p> <p>学生に修了認定のための評価基準と方法を公表しており、かつ、評価について公平性・妥当性が保たれている。</p> <p>実習時の患者への倫理的配慮を励行している。</p> <p>実習時のインシデント・アクシアクシデント等を分析し、学生生活に活かしている。</p> <p>学生による授業評価及び教員の自己評価を実施し、授業の改善に努めている。</p>	<p>階と限られているため、インターネットの講義には課題が残っている。</p> <p>授業への取り組みは、授業開始前に各領域で授業内容・方法を検討し、学生のレベルに合うように努めている。</p> <p>今年度からは、1年生に対して業者テストを導入し、学習への取り組み等の分析を行った。その資料を参考に学生に合わせた指導や実習に活かすことができた。学習への取り組み等の分析結果は、学生の実際の学習状況と合っており、指導に活かすため、業者テストは継続していく。</p> <p>実習は、コロナ禍のため、今年度も学内実習が多く、一部の領域での臨地実習になった。統合実習では、市立病院の臨床指導者の協力を得て、学内実習の指導を行い、病棟実習と同等の学びができるように実習環境を整えた。</p> <p>実習評価表の評価項目の評価の視点が明確ではなかったため、全領域、実習評価表を見直し評価の視点を設け年明けの2年生の領域別実習から運用を開始した。</p> <p>実習時の患者への倫理的配慮については、看護職の倫理綱領に基づいた行動がとれるように、実習オリエンテーション、実習場面の振り返り、カンファレンス、実習記録等を通して指導をした。</p> <p>授業では、学生による授業評価結果を教員に返却している。教員は、学生授業評価結果に基づき、自己評価を行い、授業計画を作成し、授業改善に努めている。また、今年度から、承諾が得られた外部講師には、学生授業評価を実施し、その結果を返却した。</p>
<p>IV 学生 の 募 集 と 受 け 入 れ</p>	<p>学生募集の方法</p> <p>入学者選抜方法</p> <p>学生定員の質・量的充足状況</p> <p>学生募集に関する分析・評価体制</p>	<p>3.7</p> <p>学生募集の方法は、県内の高校訪問と学校説明会、小規模説明会を実施した。さらに今年度からは志願者に対応した学校見学を実施したが、予約はなかった。</p> <p>昨年度の学校説明会では新型コロナウイルス拡大で体験ブースを設けられなかったが、今年度は手洗いトレーニングボックスを用いて標準予防策の手指衛生を体験してもらった。参加者からは、「手洗いなど身近な体験を通して学ぶことができてよかった。」という声が聞かれた。また公開講座では、令和元年が参加率は53%に対し令和2年度は30%に減少したこと、また高校生から参加希望の声もあり、今年度からは対象者を、高校2年生までに拡げ参加率の増加を目指したが、参加率は20%で増加は認められなかった。しかし、年代を拡げ学院のことを周知できたと考える。次年度に向けて、公開講座の参加率を上げるため、周知方法の工夫が必要と考える。次年度は、教員の高校訪問時に公開講座の対象が高校生までに拡大したことをアピールしていく。</p> <p>入学者の選抜方法は募集要項とホームページ</p>

			<p>に明示している。また、合格基準については、入試選考委員会が合格基準を決定し合格者を出している。</p> <p>3学年の定員数は、180人であり在学学生は184人となっており、定員の102%になっている。また、休学者は全学生数の1.6%になっている。</p> <p>入学後の学生の学力の状況、志願者の推移を企画会議で評価し、学生募集については、さいたま市外で近隣の学校からの推薦希望もあるため、県内枠の推薦について実施の検討を行った。</p>
V 卒業・就職	<p>国家試験の合格率が100%となるよう、教職員一丸となって取り組んでいる。</p>	3.7	<p>各学年担任の1人が国家試験対策プロジェクトとなり各学年の模擬試験、国家試験対策について年間計画を立案している。月1回、国家試験対策プロジェクト開催し、国家試験対策の実施状況や模擬試験の成績低迷者対策を検討している。国家試験対策プロジェクト終了後、教務会議で検討内容を共有し、学年担任、アドバイザーが学生の学習指導にあっている。昨年度同様、国家試験の対策として、模擬試験の結果から成績低迷者に対して、冬休みは、少人数グループで領域担当が補習講義を行っている。</p> <p>就職については、夏休み前、2年生に市内の病院説明会についてアナウンスを行った。オンラインの就職説明会も含み、46%の学生が参加し、就職に向けて活動を開始している。また2.3月にZoomミーティングでの就職説明会を予定である。</p> <p>今年度の卒業生60名中、就職希望者が57名であった。就職希望者中56名が市内の病院に内定している。1名については、国家試験終了後に就職活動を希望している。進学希望者3名は、全員希望した学校に進学が決定している。</p>
	<p>卒業時の到達状況を分析している。</p>		
	<p>卒業生の市内就職率を高めるよう努力している。</p>		
VI 学生生活への支援	<p>健康管理</p>	3.7	<p>新型コロナウイルス感染症予防のため、毎日、体温・体調観察を行い、体温表への記入と日頃から体調管理に努めるように指導している。また自宅学習日は学生に、学校HPに体温と体調を入力してもらい、学生の体調を管理している。PCR陽性者、濃厚接触者になり、長期に欠席しなければならない学生の対応として、講義資料の送付を行い、医師が行う病態学の授業は、Zoomミーティングが可能のため自宅で視聴してもらった。</p> <p>学生生活や進路・就職については、担任やアドバイザーが相談に応じている。また経済面は事務が相談や奨学金の説明を行い経済面の支援を行っている。</p> <p>中途退学者の防止対策としては、学習低迷者の退学率が高いため、学生の状況について教務内で情報共有しアドバイザーや担任が面談を行い対応している。その結果、昨年度の退学率は3%、今年度は1%と減少している。</p>
	<p>進学・就職などの進路に関して学生の相談に十分に応じている。</p>		
	<p>就職等の進路や経済的、精神的側面からの学生支援体制が整い、効果的に活用している。</p>		
	<p>中途退学者の防止</p>		

			<p>今年度は、カウンセリングを希望している学生が増えたため、カウンセリングを月1回から2回に増やし対応した。</p> <p>退学・休学にならないように引き続き、学生を健康面・学習面・経済面の支援を行っていく。</p>
VII 管理運営 ・ 財政	財政基盤を確保することの考え方が明確であり、教育の質の維持・向上につながっている。	3.6	<p>今年度から、年度始めに事務長が、学院の財政状況の説明を教職員全員に行い、学院の財政に関心を持てるように試みた。</p> <p>今年度からECO係を立ち上げ、学生と共に節電に取り組み、昨年度より電気使用量が節電できた。また、資料印刷する用紙、インクの見直しを行い、カラーインク代を削減することができた。</p> <p>危機管理体制は防災計画に基づいて、感染対策を行いながら、縮小して防災訓練を行なった。また、市の方針に基づいて、教職員は、マスクの着用、校内の消毒・換気、ソーシャルディスタンスの徹底等、新型コロナウイルス感染症対策に取り組んだ。学生と保護者に対しても学院としての対応を通知した。</p> <p>昨年意見箱への投稿は年間2件だったため、設置場所の検討を行ったが、設置に適している場がなく昨年度と同じ場所の設置となっているが、新しいロッカーを造設したため、死角になり意見箱が目立たないようになった。</p> <p>そのため、設置場所の説明を年度初めと夏休み前に説明を行った。今年度も学生の意見は昨年と同様2件であったが、意見に対しては、学生対応を行った。</p>
	適正な予算執行・事業の推進管理		
	危機管理体制		
	学校運営に学生の意見が反映されているよう努めている		
VIII 法令等の 遵守	法令・専修学校設置基準等の遵守	3.6	<p>法令及び専修学校の設置基準を遵守し、適正に運営している。コンプライアンスについては、市からの通知文を教職員全員で確認し行動している。</p> <p>個人情報保護に関しては、守秘義務の重要性について、学生や教職員への周知徹底を図っている。</p> <p>学校評価の公表は、「学校運営評価」「学校関係者評価」を学院ホームページで公表している。学校運営に関しては、7月に「学校運営委員会」を実施し、</p> <p>学校評価と共に学院運営の取り組み説明し運営委員から説明をもらっている。また、教職員の自己点検自己評価を年に2回実施し、9月の中間評価の時点で明らかになった改善点については、最終評価までに改善できるよう努めている。2月には、学校関係者評価委員会を開催し、他者評価を受け学校運営を行っている。</p>
	コンプライアンスに関する教育		
	個人情報の保護について十分対策がなされている。		
	学校評価の公表について。		
施 IX	校舎の構造	3.7	平成29年に校舎を立て替え、校舎は耐震性に

	施設・設備・教材の妥当性		<p>は問題がない。障害者トイレやエレベーターの設置等バリアフリーの構造になっている。</p> <p>実習室や図書室の利用方法と利用時間の検討を行なった。学生がいつでも図書の貸し出しができ、自己学習を行いやすいように本の貸し出しを個人でできるようにし、利用時間の延長を行った。</p> <p>新カリキュラムでは ITC の充実が言われている。</p> <p>昨年度から Wi-Fi 環境を学院の 1F と 4F に設置し、Zoom での講義も少しずつ行えるようになった。現在、インターネットからの文献検索が行えないため、次年度から医学中央雑誌を導入を計画している。</p>
X 教職員の育成	看護教育に必要な研修に参加できる体制が整えられ、ほかの教職員に還元する仕組みがある。	3.2	<p>学会、研修会に参加し情報収集や学習を行い、新カリキュラムに向けて、準備している。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、学会数も減り研究発表する機会が減少しているが、教員自身が研究活動に取り組めるように体制を整えていく。</p> <p>今年度も他校の教員を招き、研究授業の実施を行っており、教員の授業力の向上を図っている。</p>
	計画的に授業研修や研究活動を行えるような体制が整えられている。		
	授業をほかの教員が参観、講評できる制度がある。		
X 広報・地域活動	ホームページ・学校案内	3.5	<p>ホームページは、入試情報、学校説明会等適時更新している。</p> <p>学生のボランティア活動は、新型コロナウイルス感染症の影響で学外のボランティア活動はできなかったが、学内でできる活動ペットボトルのキャップを回収等に変更してボランティアに取り組んだ。</p> <p>学院側の地域への貢献では、新型コロナウイルスの予防接種会場として学校の開放を行い地域住民への貢献を行った。また、昨年度までは、中学生対象とした公開講座を開催していたが、高校生 2 年生まで対象を拡大することで年齢層を広げた学院を周知することができた。</p>
	地域社会の一員として、地域への広報・貢献・奉仕活動・連携の工夫を行っている。		

令和3年度学校運営評価



	令和元年度 (最終)	令和2年度 (最終)	令和3年度 (最終)
I 教育理念・目標	3.5	3.6	3.6
II 学校運営	3.5	3.6	3.4
III 教育課程・教育活動	3.6	3.7	3.5
IV 学生の募集と受け入れ	3.7	3.6	3.7
V 卒業・就職	3.7	3.8	3.7
VI 学生生活への支援	3.7	3.7	3.7
VII 管理運営・財政	3.5	3.6	3.6
VIII 法令等の遵守	3.7	3.6	3.6
IX 施設設備	3.6	3.8	3.7
X 教職員の育成	3.5	3.5	3.5
XI 広報・地域活動	3.5	3.4	3.5